2015年上半期 ④復興支援「1000人のチェロ」報告（簡素版）

齋藤記

4月２５日（土）

本番の５月２４日まで、もう一ヶ月を切った。
午前の部で３時間の練習を終えた１８０人が一斉に出てきて、暫し待機。色とりどりのチェロケースが行きかう。顔見知りがあちこちに。先の「和光３・１１コ ンサート」に来てくれた方々や、４年前まで習っていた先生の生徒仲間、それに東北キャラバンご一緒した「広島からの参加者」などなど。午後２時から３時間は１２０人近く。全１１曲を通す。私は、１２パート中の６パート。４つのグループ分けだと、4+5+6パートの２グループ。つまり、中高音 なので、ほとんどがハ音記号。一部にト音記号とヘ音記号。たまに、別な記号のまま弾き始めのエラーも。それでも、これでおおよその感覚はつかめたが、ボー イングの各所変更やハイポジションの旋律、急な旋律変化、など、要練習箇所も随所に。会場一杯に響くチェロサウンドに包まれ、至福の時間だった。それにし ても、本番は、９００人超、に合唱も加わる、という。さていかに。

5月2日（土） 最後の発送作業

１時から、清水谷公園前のビルの一角で、「１０００人チェロ事務局」の様々な資料の送付手伝い。最初、ほかのメンバーの作業部屋から出て、４人で赤坂のキンコーズへ。
私は、葉書表裏印刷。ほかの３人は、「楽譜訂正・補筆一覧」の印刷とホッチキスドメ。戻っても、約２０人で２部屋に分かれ、黙々と単純作業が 続く。面倒なのは、一人一人の「公式練習」参加の印の数が異なること。名寄せしながらの作業。午後７時。ようやく８００人分の封筒が出

来上がる。この打ち上げは、赤坂の２４時間営業の中華屋。わいわいがやがや。ここではとても書けない「モザイク」「××」な話で盛り上がる。１０時半終了。

5月２２日（金）　公式パート練習

早朝７時、東京駅出発。現地で多様な使い方をするマイクロバスに、わずか３人。事務局は、これでは間に合わない、と新幹線始発とか。佐野ＳＡで、佐野ラーメンが朝食。昼前に仙台駅隣のホテルへ。スタッフと合流、昼食を食べ、仙台駅に行くと、ボランティアガイドさんが、お揃いのＴシャツ着て、次々と到着し始めた チェロ持参の参加者へ「練習会場」案内。
駅から５分のクリスロードのホテルチェックイン。すぐそばに「復興支援ショップ」があったので、ここで雑談して過ごす。

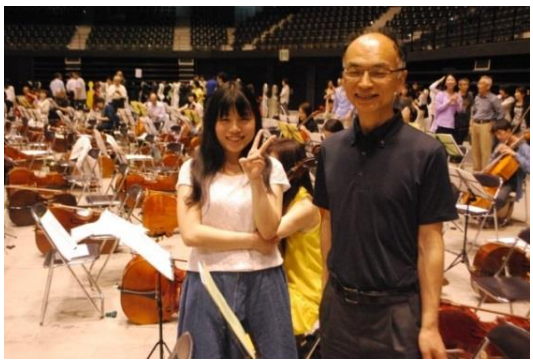
午後６時からのパート練 習へ。定禅寺の三越６階。４，５，６パート２００人以上ぎっしり。終ってからは、当然、「和光３・１１」にも参加頂いた旧知のメンバーら飲み。

5月２３日（土）　公式全体練習

朝、仙台駅まで散歩。すると、昨日とは顔ぶれも違うメンバーがお揃い。午後から２回の練習会

場で本番会場でもある「ゼビオアリーナ」の最寄駅、長町の隣駅にある、「地底の森ミュージーアム」へ。

２万年前の地層に、当時の樹木とともに、人類の焚き火や石器の痕跡。ボランティアガイド養成の集団について、話を聞き、超面白かった。で、その先生役の方から、いきなり、「どこの国から来たんですか？」「日本語でなく通訳をつれてきましょうか。」。苦笑。暫くすると、暗くなって、巨大スクリーンが降り、ここで旧石器人がどのような一夜を過ごしたのか、実証的な裏づけをもとに映画。そして、２階には、様々な疑問に対し、実証的回答。縄文の遺跡や資料館は見てきたが、ここに来ただけで、このツアーの意味あり、 と思ったほどだ。



１２時半受付。そして、午後、夜と２回の全体練習。会場に着くと、もう参加者が大勢開門を待ちわびている。本番までに「公式練習を少なくとも４回参加しなければ、本番には出られない。私は、かろうじて、だったが、人によっては、日本全国のあちこちの公式練習に参加した猛者も。カードには、スタンプがいっぱい。
会場に入ると、整然と椅子が並べられ、そして天井には、３枚の巨大な「石巻」「南三陸町」「福島原発」を描いた震災絵が吊るされ、前日の作業がどれだけ大変だったのか、と東北大医学部などのボランティアに感謝した。でも、まだまだスタッフは大忙し。練習開始。
午後の部と夜の部の休憩時間が食事タイム。ここで、沢山の知り合いと再会。
写真は、石巻市民交響楽団のチェロトップと賛助参加の女性。このチェロトップの方は美術の先生。母と娘さんを津波で亡くしている。
夜の部は、本番控え、「通し稽古」。緊張高まる。９時終了。

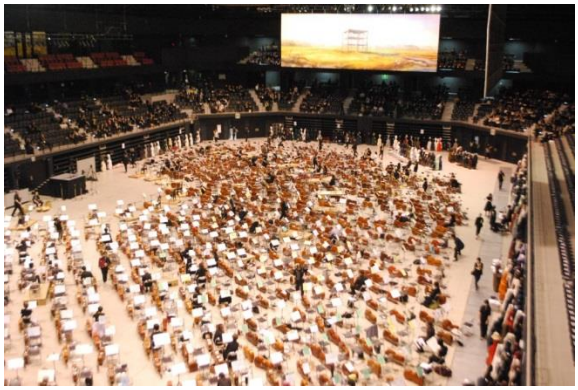
そして、隣のコートで前夜祭。指揮者シュルツさんや高名なチェリスト溝口肇さんや藤森亮一さんも参加。人の輪が出来る。１０時半すぎ、終了。ワイン飲み疲れた。

２４日（日）　本番当日

朝、地下鉄内も、駅から会場までも、チェロだらけ。そして、色とりどりのチェロケースを担いだ長蛇の列は会場へ。スタッフ、そして指揮者も、これまでの苦労も、この日まで、と笑顔。音楽雑誌「音楽現代」や「サラサーテ」のライターも、取材。

ドイツ、フランス、ベルギー、アメリカ、ベトナム、タイ、韓国、台湾などから７０名もの外国人も参加。私の６パートのサブリー ダーは韓国の教授。その教え子のイケメン２人が私の前。頻繁に変る細かな指示をお互いに、おぼつかない英語でチェックしあううち、仲良くなった。でも、あ れだけ見ている韓国ドラマのタイトルが日本語なので、伝わらず、ようやく「ケベク」でハイタッチ！

通し練習。２曲は、合唱。岩手、宮城、そして福島の高校 合唱団１５０名。素晴らしい！福島からは、なんと、あの安積黎明高校！「和光３・１１」で在京ＯＧ合唱団が参加してくれたのも記憶に新しい。そして、今度 は、スズキメソッドの子供たち入場。最年少５歳。参加者からは思わず拍手と笑みが。練習終了。



本番前のエネルギー補充。会場前では、高校生の合唱で、入場待ちの観客も、聞き入る。１時観客入場。始まる前の一時間は、あちこちで記念撮影や観客席の知り合いとの挨拶や懇談。亘理町や石巻の知人に上か ら呼び止められた。

そして、いよいよ本番。

もちろん、写真はない。が、それは、それは、心揺すぶられる演奏だった。多くの観客や大学生のボランティア、そして演奏者が涙していた、とあとで聞いた。私もそのひとり。そして、被災地の映像を提供していただいたノンフィクション作家、柳田邦男さんは、最初から最後まで涙が溢れていたとも。ここでは、「言葉にならない」ので、内容や演奏曲などには触れない。

そして、本番終了。演奏者たちは、えもいわれぬ満足感。皆笑顔で、高校生たちを見送る。 いったん、楽器を置きに解散。

そして、６時から仙台駅近くで打ち上げ！第１回神戸での書き下ろし、「チェロのためのレクイエム」を作曲して頂いた三枝さん もご挨拶。そして、ビックリ！小学校同窓生。互いに「エッ！なんで？」。なんでもまだチェロ歴一ヶ月半とか。エアーチェロ状態だったらしい。

さて、１次会 終了。ドイツ人指揮者を送り、２次会へ。私は、名古屋からの組と、鹿児島からの組が隣り合わせ だったので、そこに混ぜてもらう。知らない同士も、すぐに知り合いへ！

5月２５日（月）　女川キャラバンへ参加

朝、昨日の本番前に、石巻市民交響楽団のチェロ奏者から渡された、６月下旬に小学校体育館で行う「ファミリーコンサート」の楽譜を渡されたので、どんな曲 をやるのか、暫し、チェック。

８時。仙台駅近く、名物「朝市商店街」の中のビル３階で慌しく 30 分余り練習。
私は、急に、これまでのパートから低弦の パートへ移るように言われ、２つのパートを弾ける喜びと、初見の不安。
９時仙台駅。本番参加者の１割、９０人余りが、「石巻」「山元町」「塩竈」そして私の参加する「女川」の４組に別れ、大型バスに分乗。女川組は１９名。私が引率リーダー、と言われ、司会やガイドをやる。

車中での自己紹介は、「チェロ 歴、所属オケ」などとともに、前日の本番がいかに胸をうつものだったのか、また支援への想いを異口同音に語り、改めて涙する方も。

１１時、女川の地域医療 センター着。
2011 年以降何度も多くの方々を案内した海や町が一望できる場所。参加者へ、海抜 16mの駐車場に避難し、様子見していた満杯の車が、後ろから廻りこんで来た第１波の津波
に流され、多くの方が亡くなった場所。病院前のプレハブ、馴染みの「お土産屋兼カフェ」ママと挨拶。「震災前」と「３・１１直後」（今、ではない）の女川などの写真集などを店で見てもらう。そして、外の風景。漁船が停泊し、新女川駅が出来、土盛りと大きな道路が大きな違い。

１１時半、病院２階で、演奏開始。
そして、なんと、観客、たった３人。前々日にも、仮設住宅の集会所でチェロ四重奏の演奏があり、また情宣期間があまりに少なかった、と現地案内役の歯科医師木村先生。石巻市民交響楽団副団長。しかし、これが、「結果良し」。「体験したことにない感動」の演奏会となったのだ。
演奏会が終って、観客の方々に、「感想」「想い」を自由に語ってください、とお願いすると、最初の方は、女川女声合唱団ソレイユのメンバー。いまだ団員３名は行方不明のまま、という。２０１２年３ 月石巻専修大学体育館での「犠牲者追悼演奏会」で、フォーレ「レクイエム」を歌うまで、練習場所も流され、ほぼ全員仮設暮らし。もうひとりの方は、津波に巻き込まれ、低体温症で生死をさまよい、「生き延びた」。とつとつと、言葉を選びながらの話に、演奏者からはすすり泣く声。涙がつたり落ちた。「新しい 女川駅が出来、その前に大きな道路もできました。まるで、別な町。あの、女川の町はどこにいってしまったのだろう、と思い、気持ちが大きく落ち込みます。 でも、そんなことを考えてちゃいけない、これからの町が始まる、と思って、前向きに考えるように、と思うのです。」終ってから、涙目の演奏者たちが次々と 抱擁し、または握手していた。

気付けば１時近く。昼食も車中で。急ぎ、新女川駅と復興商店街を５分ずつ、で立ち寄り、３時１５分、仙台駅へ。ほとんどは帰還。残れる４人で４時前から乾杯！

《どうりでお上手なわけで》

やはり、女川。６パートだった私は、急遽１２パートを弾くように、と言われ、「初見」の楽譜を隣の年配の方に見せて頂きながら、弾くことに。楽譜には、指 の押さえ方がほとんど全音符にひとつひとつ細かく書き込んである。普通、１年目、２年目の私がそうだったように、「初心者」の証。ベテランは、最小限の難 しい箇所以外は、空白。最前列のトップ？おこがましいんじゃ？さて、演奏開始。すると、ななななんんんだだだ。上手い。難しいリズムもきっちり刻み、音符 も最後まで弾ききる。で、これまた終って飲み会に参加頂いて分かった。元仙台フィルのプロだった！楽譜に書いてあるのは、分奏練習指導者として、「生徒達 の指導」に使うためだった。分かった瞬間、穴があったら、と顔が赤らんだ。多少はワインのせいだが。

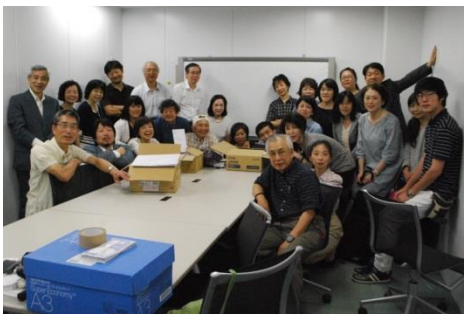
《同じサークルの先輩とは知らず！》

女川へバスでご一緒した１９名。その中で、ハイポジションばかりの難しい旋律を弾ける凄腕の女性と、全くの初心者の女性。この２人、実は、なんとあの体育会系オケ、慶應大ワグネルの先輩・後輩であった！で、なんで、初心者？ワグネルではヴァイオリン、そしてピアノも弾くのだ。でも、チェロに惹かれ。昨年から始めたばかり。仙台駅で 解散！そのあとの飲み会に加わった凄腕さんがワグネル、と知り、バスの中で初心者の方からも聴いていたので、紹介すると、大変残念がって、 「連絡先は分かりませんか？」。

６月５日（金）後処理手伝い

赤坂。５時。1000 人チェロの後処理のレターなど「発送仕事」手伝い。

発送作業開始。途中、先日の仙台本番のビデオが流れる。
冒頭、韓国のコンミスが、ひとり、「鳥の歌」を奏ではじめた。すると、作業の手を止め、涙ぐむ方々が。聞くと、まだ自分は演奏もしていない本番のこの時に、この音で、既に涙が止まらなかった、という。すると、他の方は、「司会の方が震災のエピソードを話してたでしょ。もうあれで、ダメ。観客の多くが涙していたって、いうけど、演奏していた私たちも、なのよね。」。
実は、似た話は、３月の「和光３・１１を忘れないコンサート」でも、「こんな故郷の四季初めて」。2012 年３月の石巻市民交響楽団の「犠牲者追悼コンサート」でも、「こんなフォーレレクイエム初めて」。何度も同じ局を演奏してきた多くの演奏者たちから聞いたことがあった。
同じ曲でも、その場の空間次第で、平凡にも、奇跡にもなる。それを私は、３・１１以降、もう何度も体感してきた。これを幸せ、とは言わない。至福の時、とも違う。だが、音楽を媒介にせずには、この感動は得られないことは確かだ。音楽が、人生を変えた。感謝！



７時終了。
同じビルの１階のレ ストランで 20 数名、乾杯！
「私、実は音大出て、ピアノ教師で、沢山のコンサートも経験しましたが、音楽で魂が揺すぶられるって、 実は無かったんです。で、本当に今回、自分でもビックリしたんです。そうか、これが本当の感動なんだ、って。技術が上手い、とかそういう問題じゃないん だ、音楽は、と。」。
また、広島からわざわざ来た女性、なぜ？すると、実は岩手の譜代が実家。３・１１の時、近くの田野畑村が津波に襲われたテレビニュースでも、すぐそばの「譜代」まではなかなか報道されない故郷をずっと心配し続けた、今回は支援へのお礼で上京、と。11 時終了。

６月20日（土）「女川から四本のチェロの響き」コンサート鑑賞

夕方、大森へ。商店街にある土日のみオープンの「石巻マルシェ」で、「１０００人チェロ参加、女川演奏４人のアンサンブル」ミニコンサート。みんな、１０００チェロでは、１パート とか２パートの、要は、お上手な方々。あの「チェロのためのレクイエム」を４人で弾く、なんぞ、恐ろしくて出来ないが、ちゃんと弾いておられた。それに毎月月命日の１１日前後に、２０１１年からずっと石巻や女川などの仮設などで「慰問」活動しているプロのソプラノ歌手。
１時間の演奏で、なるほど、私の６パート、つまり２グループは、いかに重要な役割か、を改めて知った。それと、やはり、歌は何かを伝える。

さて、懇親会。２０人足らずなのに、豪華顔ぶれ。イタリアはクレモナから一時帰国の有名な弦楽器製作者や、朝ドラ「村岡花子ー赤毛のアン翻訳者ー」の原作 者や、日本チェロ協会の会員番号１番さんや、娘はドイツでプロヴァイオリニスト、ご本人は石巻、ご主人は会津若松の方で、なんと和光市民合唱団の元代表や 指揮者を知っている方や、今晩、徹夜する石巻中出身、通信社の方・・・・。９時半すぎまで、交流。

以　上